

爬虫類

爬虫類の多くは虫やカエルなどを食べる捕食者(ほしよくしゃ)です。つまり、爬虫類がいる環境は多くの生物が暮らしている証(あかし)ともいえます。爬虫類の中にはかみつくもの、毒をもつものもありますが、どれもよく見てみるとかわいらしくたくましい生き物たちです。

絶滅 EX

野生絶滅 EW

絶滅危惧ⅠA類 CR

絶滅危惧ⅠB類 EN

絶滅危惧Ⅱ類 VU

準絶滅危惧 NT

情報不足 DD

絶滅のおそれのある地域個体群 LP

1 ニホンイシガメ [生息場所] 川・池
よくみられる時期: 4月~10月
最大甲長: ♂14cm、♀21cm



VU

こちらの尻側の縁(ふち)がギザギザで、足のオレンジ色の線などが区別ポイント。外来生物の影響(えいぎょう)などで数が減っています。

2 ニホンスッポン [生息場所] 川・池
よくみられる時期: 4月~10月
最大甲長: ♂35cm、♀25cm



DD

こちらがやわらかいのが特ちょう。長い首、突き出た鼻(はな)で水中でも呼吸をすることができ、泳ぐこと、川底にかくれることが得意です。

3 ニホントカゲ [生息場所] 里林・草原
よくみられる時期: 4月~9月
全長: 15~25cm



NT

青い尾(お)は子どもの特ちょう。大人になると全身が茶かっ色になります。住宅地から山地まで生息し、昆虫などを食べます。

4 ニホンカナヘビ [生息場所] 里林・草原
よくみられる時期: 3月~10月
全長: 16~27cm



VU

ニホントカゲとまちがわれることが多いです。トカゲは体表がツツツツヤしていますが、こちらはガサガサしており、細身で尾が長いです。

5 タカチホヘビ [生息場所] 里・山
よくみられる時期: 5月~10月
体長: 30~60cm



VU

小さな目と虹色(にじいろ)光沢のうろこが特ちょう。地中性かつ夜行性であるため、なかなか人前に現れませんが、ミミズが主食です。

6 シロマダラ [生息場所] 里・山
よくみられる時期: 5月~10月
体長: 30~70cm



NT

幼体(ようたい)は地色が白っぽいですが、成長につれて小豆(あずき)色になります。夜行性で、トカゲやヤモリ、小型のヘビなどは虫類を食べます。

7 ジムグリ [生息場所] 里・山
よくみられる時期: 5月~10月
体長: 70~100cm



NT

地中でモグラやネズミなどを食べて生活しているため、めったに出会えません。写真は幼蛇(ようだ)で、大人は茶色く、背面(はいめん)の黒点もなくなります。

8 アオダイショウ [生息場所] 里・山
よくみられる時期: 4月~10月
体長: 100~200cm



DD

九州最大のヘビで、木登りを得意とし、鳥の巣の卵(たまご)やヒナ、屋根裏のネズミなどを食べます。子どもはマムシのようなもようをしています。

9 シマヘビ [生息場所] 里田んぼ
よくみられる時期: 4月~10月
体長: 80~160cm



DD

しまようタイプと黒色タイプがいて、後者はカラスヘビとも呼ばれています。カエルを主食としますが、は虫類や哺乳(ほにゅう)類なども食べます。

10 ヒバカリ [生息場所] 里田んぼ
よくみられる時期: 4月~10月
体長: 40~60cm



NT

水中ではオタマジャクシや小魚を、陸上ではカエルやミミズなどを食べる小型のヘビ。後頭部の白いもようが特ちょうです。

11 ヤマカガシ [生息場所] 里田んぼ
よくみられる時期: 4月~10月
体長: 70~150cm



DD

おく歯近くと頭部に毒腺(どくせん)をもつ毒ヘビ。怒らせると、コブラのように首下部をふくらませます。地色は赤が多いですが、白、青、黒と変異(へんい)に富みます。

12 ニホンマムシ [生息場所] 里田んぼ
よくみられる時期: 5月~10月
体長: 40~65cm



DD

毒ヘビとしておそれられていますが、性格はおとなしく、積極的(せきじき)に人をかむことはありません。田んぼの近くでよくみられ、カエルやネズミなどを食べます。

両生類

両生類は、一生涯(いっしょうが)をもつサンショウウオ科やオオサンショウウオ科などの有尾目(ゆうびもく)と、水中から陸(りく)に上がるとしっぽが消えるヒキガエル科やアマガエル科などの無尾目(むびもく)に分類(ぶんるい)されます。

1 オオイタサンショウウオ [生息場所] 林・湿地
よくみられる時期: 12月~3月
体長: 150mm前後



VU

大分市内では山麓(さんろく)の水田や水たまりで12月~3月に産卵(さんらん)し、幼生(ようせい)まで成長します。成体は周辺の森(か)れ木の下などで、昆虫やクモをエサとします。

2 アカハライモリ [生息場所] 池田んぼ
繁殖期: 4月~7月
体長: 100~130mm



NT

池やたまりに5月ごろ産卵し、卵は1個ずつ水草(すいそう)にうみつけれられます。乾燥(かんそう)化が進み、市内では山間部(さんかんぶ)の一部にしか見かけられません。

3 ニホンヒキガエル [生息場所] 池・里・山林・草原
産卵期: 1月~2月
体長: 80~180mm



NT

茶かっ色で多数の突起(とつき)や隆起(りゅうぎ)を持つ大型のカエルの仲間。産卵期(さんらんき)に小川(せがわ)や池に集まり、数千個以上の卵を2m前後の卵囊(らんのう)にうみます。

4 ニホンアマガエル [生息場所] 田んぼ・里林・草原
よくみられる時期: 6月~9月
全長: 22~45mm



DD

小型で緑色の体色ですが、周囲の環境により、灰色や黄色に変化します。眼(め)の側面から前足(まへあし)にかけ、黒い斑点(はんでん)が見られます。

5 ニホンアカガエル [生息場所] 田んぼ・山林・草原
よくみられる時期: 6月~9月 成体や産卵期の時期
体長: 35~67mm



DD

平地(へいぢ)や山間の水田・草地に生息する、黒かっ色から赤かっ色の中型(ちゆうぐ)のやや大きめのカエルです。腹(はら)は白色で斑点(はんてん)がありません。水田の乾燥(かんそう)化が進み、数の減少(げうすう)が心配されています。

6 タゴガエル [生息場所] 沢・山林
産卵期: 4月~7月
体長: 30~58mm



DD

大分市近郊(きんこう)の野津原(のつはら)から朝地(あさぢ)をこえた溪谷(けいこく)など、産卵期(さんらんき)は岩石(いし)の間に生息します。オスの「グツ・グツ」と鳴く声(こゑ)で存在(そんざい)がわかります。

7 ヤマアカガエル [生息場所] 沢・田んぼ・里林・草原
繁殖期: 2月~4月
体長: 40~80mm



DD

山間の丘陵(きゅうりゅう)地(ち)から山地(さんち)の草むらに生息。日当たり(ひあたり)の良い止水域(しずいき)に集まり、産卵(さんらん)します。黒かっ色から赤茶色(あかちやいろ)の体色で、あごをのぞいて腹(はら)は白色で斑点(はんてん)がありません。

8 トノサマガエル [生息場所] 田んぼ・里林・草原
よくみられる時期: 5月ごろ
体長: ♂40~80mm、♀63~95mm



NT

大型(だいぐ)のカエルで、オスはせなかに黄緑色(わうりくいろ)の線(せん)、メスは灰色(こがいろ)の線(せん)があります。産卵(さんらん)後、水田(すいでん)や周囲(しゅうい)の草地(そうぢ)で過ごします。9月から翌(ふた)年(ねん)4月~5月まで、畑(はたけ)などで冬眠(とうみん)します。

9 ツチガエル [生息場所] 池田んぼ
よくみられる時期: 梅雨(つゆ)時期
体長: 40~60mm



DD

大分市(おおいち)では山間部(さんかんぶ)の水田(すいでん)で確認(かくにん)できますが、数は少ないです。体表(ていぱう)は茶かっ色の個体(こたい)が多く、イボ状(いぼじょう)の突起(とつき)が多数あり、腹部(ふくぶ)に黒い斑点(はんてん)があります。

10 ヌマガエル [生息場所] 田んぼ・里林・草原
よくみられる時期: 繁殖期と9月~10月
体長: 30~50mm



DD

平地(へいぢ)でも多く見られます。5月~7月、水のうった水田(すいでん)で産卵(さんらん)が行われ、「ゲコ・ゲコ」と大合唱(だいごう)が始まります。背中(せなか)は茶かっ色で、黒色の斑点(はんてん)があります。

11 シューゲルアオガエル [生息場所] 田んぼ・山林・草原
繁殖期: 3月~6月
体長: ♂30~40mm、♀40~50mm



DD

山間部(さんかんぶ)の水田(すいでん)や草地(そうぢ)で、3月から産卵(さんらん)が終わった5月に、オスが「ケレ・ケレ・ケレ」と高音(こういん)で鳴きます。せなか側(せなかがわ)は緑色(りくいろ)、腹部(ふくぶ)は白色(はくいろ)です。白い綿(わた)状(じょう)の卵塊(らんかい)をうみます。

12 カジカガエル [生息場所] 川・沢
よくみられる時期: 産卵(さんらん)できにくい、5月~6月
体長: ♂30~40mm、♀50~70mm



DD

オスは灰かっ色の体色(ていしき)で不規則(ふそくそ)な模様(もよう)もよう、メスは茶かっ色(ちやかっいろ)で吸盤(きゅうばん)を持ちます。繁殖(はんし)は(はん)しく期(き)、オスは河原(かはら)できれいな声(こゑ)を出します。メスはゆるやかな溝(れき)の間に産卵(さんらん)します。